

令和3年12月21日（火）「第25回 河川環境再生小委員会」が釧路市観光交流センターで開催されました。

■開催概要

小委員会には、24名（個人14名、7団体8名、オブザーバー1団体1名、関係行政機関2機関2名）が出席しました。（コロナウイルス感染拡大状況により一般の方の傍聴は中止させていただいています。）

今回は、「茅沼地区旧川復元事業について」、「ヌマオロ地区旧川復元事業について」釧路開発建設部より報告がありました。さらに「釧路川支川魚類生息環境の再生事業について」釧路自然保護協会より報告があり、それぞれに対する意見交換が行われました。

河川環境再生小委員会とは



河川環境再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会の7つある小委員会の一つです。毎年1～2回の会議を開催し、河川環境の保全・再生に関わる施策について検討をしています。

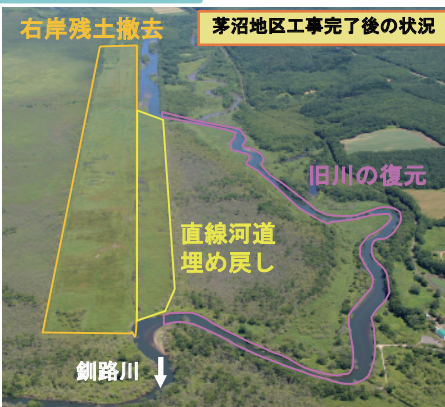
- ・ 釧路川や釧路川支川の本来の姿である蛇行河道の復元
- ・ 湿原への土砂の流入を軽減し、湿原植生の再生を目指す
氾濫原の回復
- ・ 魚類が河川を下流から上流まで移動できる連続性の確保

河川環境再生の取り組み



釧路川とその流域

旧川復元事業



- ・ 旧川復元事業では直線化された河川を元の蛇行河川に復元することで、氾濫頻度を増やし、湿原植生の回復や湿原中心部に入る土砂を軽減させます。
- ・ また、蛇行河川に戻すことで、魚類の生息環境や湿原景観の復元を図ります。
- ・ 茅沼地区は平成23年3月に旧川の復元が完了し、令和元年度から2箇所目のヌマオロ地区の旧川復元に向けた工事に着手しています。

釧路川支川魚類生息環境の再生事業

- ・ サケ科魚類の遡上環境改善に向けて釧路自然保護協会が中心となって平成30年から釧路川水系の支川で魚道整備を実施しています。
- ・ 令和2年10月に実施計画を策定し、釧路湿原自然再生事業として事業を進めています。



落差工への魚道整備を実施

1 茅沼地区旧川復元事業について

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課が取り組みました

◆ 令和3年度の取り組み



茅沼地区の全景 (H28. 8月出水時)

1. モニタリング調査

- 旧川復元による事業効果について、事業開始から10年目となる令和2年度までのモニタリング調査で、当初の事業目標を概ね達成したことを確認しました。
- 今後は、釧路川全体を対象とした定期調査である河川水辺の国勢調査などで、5年に1度状況を確認していきます。
- 令和3年度は、植生調査を河川水辺の国勢調査の一環として実施し、平成28年調査と比べて復元した河道や旧川沿いで湿原植生が回復していることを確認しました。



ハンノキの枯死状況

2. ハンノキ群落における湿原植生再生試験

- 旧川復元後のハンノキ群落では、ハンノキの樹皮の一部を剥ぎ取って（環状剥皮）立ち枯れさせることで、多様な湿原植生の回復を促す試験を令和元年から行っています。
- 今年度調査では、立ち枯れたハンノキが多く確認され、2年程度でハンノキ衰退の効果が得られることを確認しました。
- 環状剥皮を下試験区では、結実の割合が増加したり、葉の面積が大きくなっており、ハンノキが厳しい生育環境に耐えようとしている様子が確認されました。
- 今後の傾向についてモニタリングを続けていく予定です。

このような意見交換が行われました。



ハンノキの枯死について、枯死木の判断方法について教えてください。



地上部が枯れて、萌芽していないものを枯死と判断しています。



委員



事務局

2 ヌマオロ地区旧川復元事業について

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課が取り組みました

◆ 令和3年度の取り組み

1. 工事予定

- 令和元年度から旧川復元に向けた工事に着手し、令和3年度は工事用道路の施工、左岸側旧川の掘削工事、本川への仮橋設置を予定しています。

2. 希少植物の移植

- 工事によって影響を受ける希少植物を保全するため、影響を受けない場所への移植を行っています。
- 令和3年度は工事用道路の施工前に希少植物の生育状況を確認しました。移植対象となる希少植物の面積が大きいため、今後、移植方法について検討する予定です。
- 令和元年度に移植した希少植物の生育状況を確認しました。移植した場所はシカの踏み荒らし等の影響によって消失する箇所も見られました。今後もモニタリングを継続していきます。



ヌマオロ地区の全景



移植対象の希少植物（ホソバドジョウツナギ）



有識者との現地確認（7/30）

3. 魚類・底生動物の調査

- 旧川復元を行う前の河道における魚類・底生動物の生育状況を把握するため、生物環境調査を実施しました。
- 調査の結果、現況の直河道ではヤマメ等の魚類や流れのある環境を好むカワゲラ等の底生動物が確認されました。旧川ではトミヨやエゾホトケドジョウ等の魚類や止水域を好むトンボ等の底生動物が確認されました。
- 旧川の掘削・堆積物の除去を行う前に、可能な限り捕獲して移植を行います。



魚類の採取（投げ網）



トミヨ

このような意見交換が行われました。

- | | |
|--|---|
| <p>● 河川を締め切ると水が濁ってカワシンジュガイが確認しづらくなるので、締め切る前に一度目視確認で捕獲してから、水位を下げて捕獲するなど、二段構えの方法を検討していただきたいです。</p> | <p>▶ ● 今回の調査では下流の自然蛇行区間でカワシンジュガイを多く確認しており、事業予定区間で確認されていませんが、確認された場合は検討したいと思います。</p> |
| <p>● ヤツメウナギの幼生が泥の中に相当数いると思われるので、できるだけ移動する努力をしてほしいです。</p> | <p>▶ ● 移植時の捕獲については最大限努力をして実施していきたいと考えています。</p> |
| <p>● 旧川にいるエゾホトケドジョウの移動先は上流の止水域でしょうか。また、トゲウオの仲間は直線河道に移動しても問題ないと考えられます。</p> | <p>▶ ● 移動適地は現地で確認しながら実施する予定ですが、移動の際に改めてご助言をいただきたいと思っています。</p> |
| <p>● 移動の際にポンプで水を汲み上げて下流に流すと、下流の水量が多くなるのではないのでしょうか。澄んだ上水を直線河道に流し、下層のみずは下流に移すようにしてはどうでしょうか。</p> | <p>▶ ● 旧川の下流側にポンプ排水を行い、濁水防止のシルトフェンスで囲って処理します。茅沼地区での実施時と同じ方法で行う予定です。</p> |
| <p>● ヌマオロ地区の上流で土砂流出が生じています。その対応等について聞かせてください。</p> | <p>▶ ● 国の直轄区間外ですが、関係機関等に対応について協議検討していると聞いています。</p> |
- 委員 ● 事務局

3 釧路川支川魚類生息環境の再生事業について

釧路自然保護協会が取り組みました

◆ 令和3年度の取り組み

- 令和2年10月に「釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画書」を策定しました。
- 今年度は魚道の新規施工とあわせて、遡上の障害となる護床連節ブロックの改良工事を試験的に実施しました。
- 産卵数調査ではサケやサクラマス産卵が過密な状態となっていますが、魚道整備を行うことで上流に分布が広がると考えています。



自然再生事業実施状況（2021年度施工）

このような意見交換が行われました。

- | | |
|--|--|
| <p>● 2019～2021年度にかけてイトウの産卵床が減少しているようですが、これくらいの差は年変動としてあり得るのでしょうか。</p> | <p>▶ ● 産卵床の減少については年変動によるものなのか、他の要因が関係しているか、はっきりとはわからない状況です。</p> |
| <p>● 事業実施箇所の管理者は誰で、管理者とどのような協議を行って検討を進めたか教えてください。</p> | <p>▶ ● 所有者は国、管理は市であり、市の河川担当者など、関係機関と相談して実施しています。また、専門家と話しながら河川が壊れないように実施しています。</p> |
| <p>● 日本河川・流域再生ネットワークというのがあり、そこで小さな自然再生の取組としてこの事業の情報を公開しているので、参考にいただければと思います。</p> | |
- 委員 ● 釧路自然保護協会



「旧川復元事業実施計画」の概要

（「茅沼地区旧川復元事業実施計画」平成18年8月、「ヌマオロ地区旧川復元実施計画」平成29年7月）

茅沼地区、ヌマオロ地区では、直線化した河道を埋め戻して旧川を復元することで、以下の効果を期待します。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元 | ②冠水頻度回復による湿原植生の再生 |
| ③湿原景観の復元 | ④湿原中心部への土砂流出などの負荷軽減 |



くわしくはこちら 「茅沼地区旧川復元事業実施計画」



くわしくはこちら 「ヌマオロ地区旧川復元事業実施計画」

「釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画」の概要（令和2年10月）

サケ科魚類の遡上環境改善に向けて、釧路川水系の支川で魚道整備を実施しています。
魚類の遡上・生息環境を復元することで、それらを餌とするシマフクロウやタンチョウなどの
採餌環境や湿原生態系の復元を目指します。



くわしくはこちら 「釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画」

第 25 回河川環境再生小委員会〔出席者名簿（敬省略、五十音順）〕

個人〔14名〕

折戸 聖 [公益財団法人 北海道栽培漁業振興公社]
神田 房行 [北方環境研究所 所長]
坂井 一浩 [八千代エンジニアリング（株）北海道営業所]
櫻井 一隆
清水 康行 [北海道大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門
水工・水文学研究室 教授]
新庄 興
新庄 久志 [釧路国際ウェットランドセンター技術委員長
（環境ファシリテーター）]
関 基 [八千代エンジニアリング（株）北海道営業所]
照井 滋晴 [特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表]
野本 和宏 [釧路市立博物館]
早川 博 [北見工業大学 工学部 社会環境工学科 教授]
針生 勤
平間 清 [(有)平間ファーム]
渡部 哲史 [京都大学防災研究所]

団体〔7団体〕

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [芳賀 孝朋]
釧路湿原国立公園連絡協議会 [元岡 直子]
釧路水産用水汚濁防止対策協議会 [吉川 徹]
国立研究開発法人
土木研究所寒地土木研究所水環境保全チーム [上席研究員 岩倉 啓子]
[研究員 布川 雅典]
標茶西地区農地・水保全隊 [佐久間 三男]
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]
特定非営利活動法人 トラストサルン釧路 [松本 文雄]

オブザーバー〔1団体〕

標茶町農業協同組合 [課長 只野 茂仁]

関係行政機関〔2機関〕

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長 池田 共実]
鶴居村 [松尾 昭夫]

～ 委員を募集しています ～

- 毎年10月中旬～11月初旬に釧路湿原自然再生協議会の委員を募集しています。
- どなたでも参加でき、興味のある小委員会に参加していただけます。

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。



釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL (0154) 23-1353

FAX (0154) 24-6839